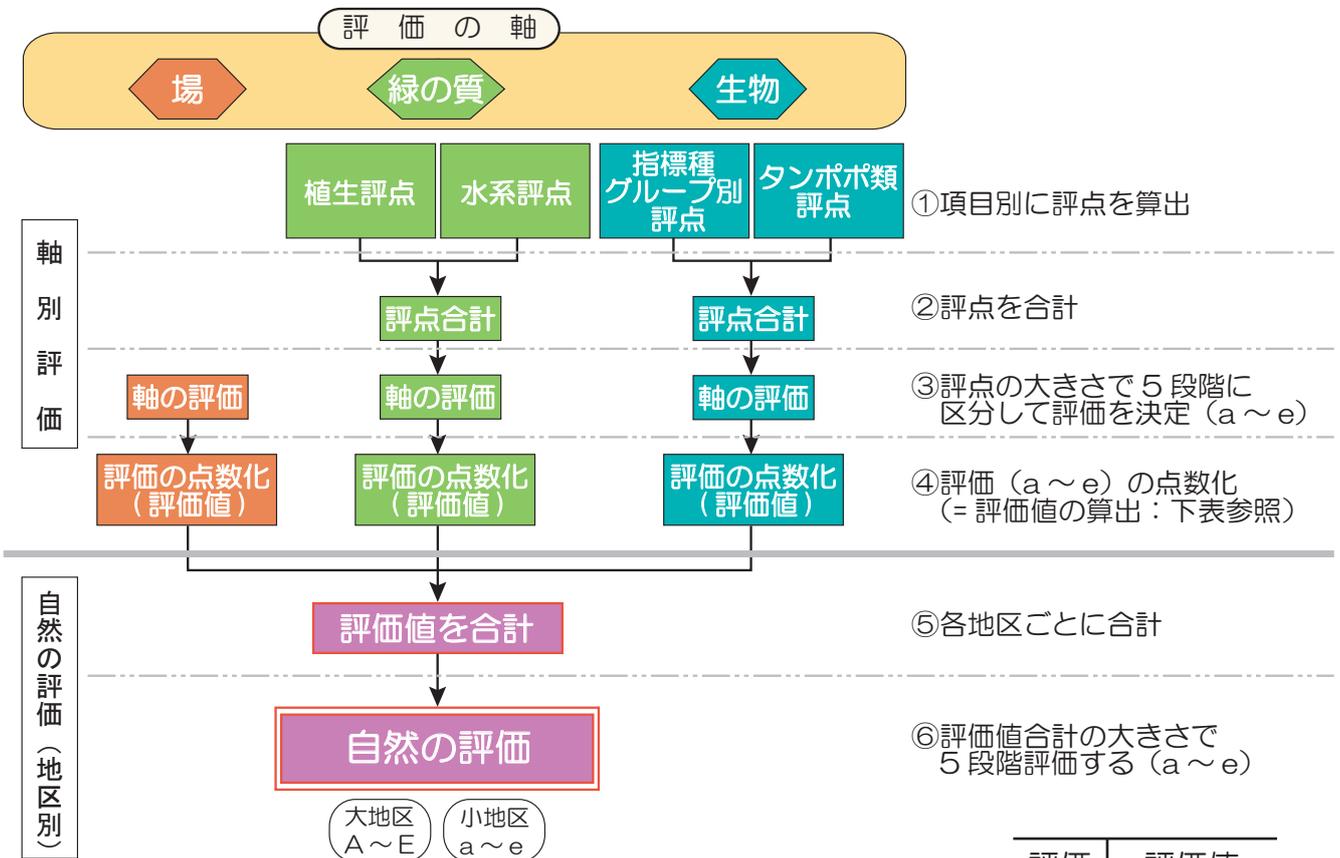


6. 評価

6.1 評価の流れ

評価は「場」「緑の質」「生物」のそれぞれを a～e の5段階に評価し、さらに3つをまとめて地区ごとの自然評価として算出しました。手順は以下のとおりです。



評価	評価値
a	5
b	4
c	3
d	2
e	1

【場の評価】

地形図や植生図を参照しながら、表の基準により5段階に評価しました。

◇場の評価基準

評価	基準
a	地域の骨格となる地形と、まとまりのある緑地がある
b	まとまりある緑地が大半を占める
c	緑は少ないが、地域の骨格となる地形がある
d	中核となる緑地をつなぐコリドーである
e	緑は存在するが、まとまりが少ない

【緑の質の評価】

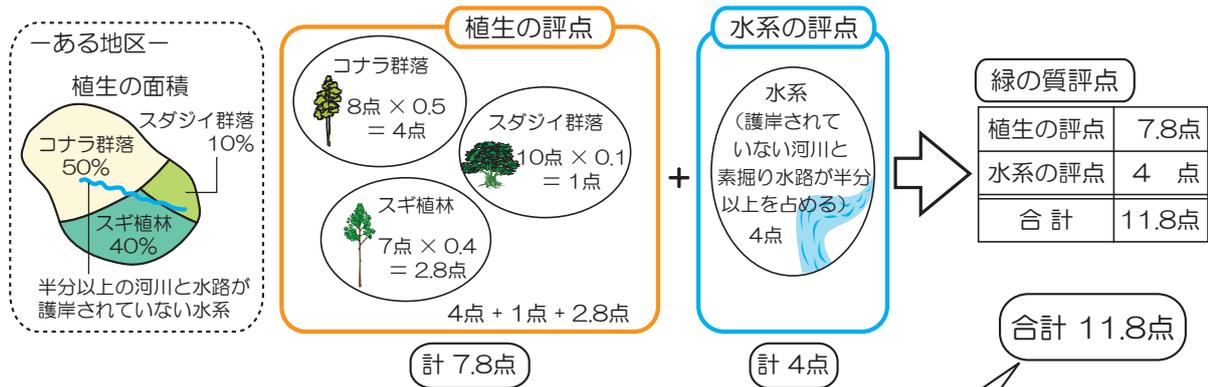
植生と水系で個々に評点を算出し、その合計の大きさを5段階に評価しました。

緑の質評点 = (植生の凡例ごとの評点 × 地区における面積割合) の合計値 + 水系の評点

緑の質の評点計算例

—ある地区の場合—

植生の面積割合が、コナラ群落 (50%)、スギ植林 (40%)、スタジイ群落 (10%) で素掘り水路がある。



この「ある地区」が小地区であるとして、実際の緑の質評点の最高点は 12.1 点でした。11.8 点は 12.1 点の 97% で、最高点の 80% を超えるので、この地区の評価は「a」になります。

◇植生の評点

評点	群落名
10	スタジイ群落
	ケヤキ群落
	ヨシ群落
9	ムクノキ-ケヤキ群落
	水田放棄植物群落 (湿性植物群落)
8	コナラ群落 (林床開放型)
	コナラ群落 (林床低木型)
	谷戸の水田
7	コナラ群落 (林床ササ密生型)
	スギ植林
6	モウソウチク・マダケ林
	陽性低木群落
5	アズマネザサ群落
	ススキ群落
	伐採跡地
	畑放棄植物群落
4	果樹園
	苗木畑
	樹木植栽地
	水田
3	畑
	緑の多い住宅地
2	芝地、グラウンド
	草地 (人工法面等)
1	住宅地、道路造成地

◇水系の評点

評点	水系の内容
5	護岸されていない河川と池、素掘り水路のみが存在。
4	護岸されていない河川と素掘り水路が半分以上を占める。
3	護岸されていない河川と素掘り水路が半以下である。
2	護岸されていない河川と素掘り水路は少ない、または無いが片側護岸や、水辺護岸の河川がある。
1	三面コンクリート張り水路、U字溝、人工池である。
0	水辺が無い。

◇緑の質の評価

評価	評点合計値の内容 (最高点に対する評点の割合)
a	80%以上
b	60%以上~80%未満
c	40%以上~60%未満
d	20%以上~40%未満
e	20%未満

【生物の評価】

各地区で確認された指標種（グループ）の評点の合計値の大きさを5段階に区分しました。

生物評点=地区内で確認された指標種（グループ）の評点の合計値+タンポポ類の評点の平均値

注1）指標種：その種が確認されれば評点を与えました。

注2）指標グループ：そのグループのうちの1種が確認されれば評点を与えました。

注3）例外としてタンポポは在来種と外来種の生育割合から評価しました。

◇各環境タイプ別の指標種グループと評点

評点	樹林の存在を指標する種	水辺（水田,水路,河川など）の存在を指標する種	草地の存在を指標する種
	猛禽類グループ		
3点	サンコウチョウグループ キンラングループ	ホタルグループ ホトケドジョウ イワボタグループ ヤマセミグループ	在来タンポポのみ
2点	キビタキグループ ヤブコウジグループ ハンミョウ	キセキレイグループ カエルグループ ヨシノボリグループ シマアメンボ ハグロトンボ	在来タンポポ優占 オナガササキリ セッカグループ
1点	ヤマガラグループ クロカナブングループ	コサギグループ キツネノボタグループ ドジョウ オニヤンマ	外来タンポポ優占 ヒバリグループ

◇タンポポ類の評点

区分	評点	内容
在来タンポポのみ	3	カントウタンポポ、シロバナタンポポのみ
在来タンポポ優占	2	カントウタンポポ、シロバナタンポポが多い
外来タンポポ優占	1	セイヨウタンポポ、アカミタンポポが多い
外来タンポポのみ	0	セイヨウタンポポ、アカミタンポポのみ

タンポポ類は、各地区に複数の調査地点があり、調査地点ごとに該当するグループを判定しています。そのため、各地区のタンポポ類の評点は、地区内の調査地点ごとのタンポポグループの評点の平均値としました。

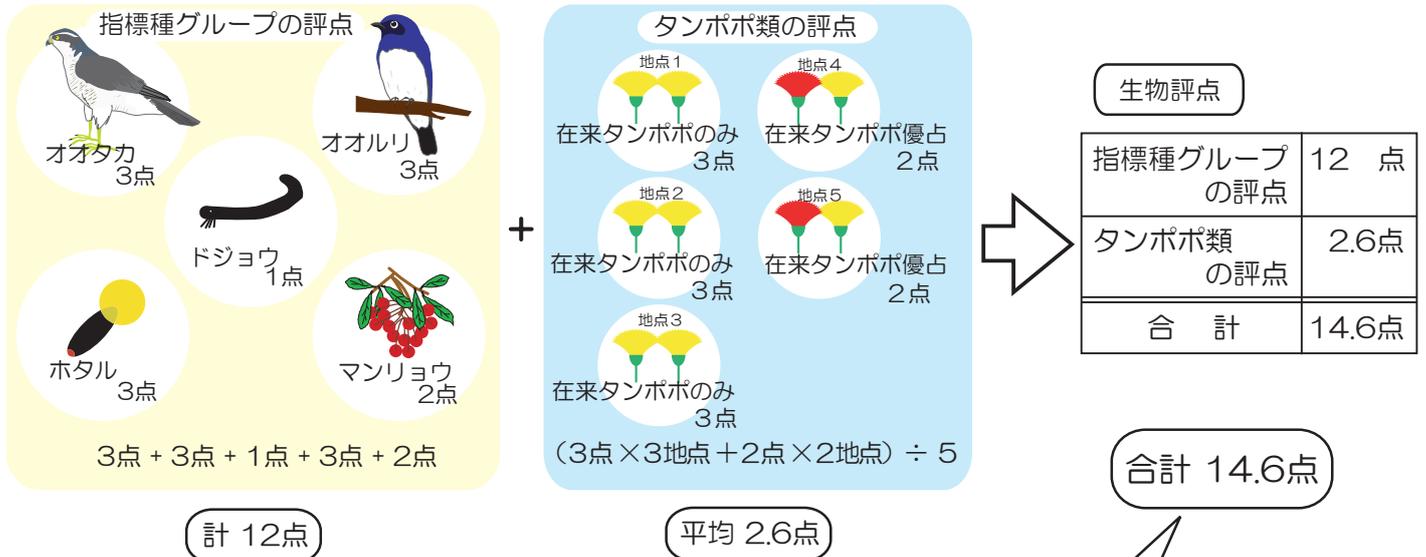
◇生物の評価

評価	評点合計値の内容 (最高点に対する評点の割合)
a	80%以上
b	60%以上～80%未満
c	40%以上～60%未満
d	20%以上～40%未満
e	20%未満

生物評点の計算例

—ある地区の場合—

生物指標種はオオタカ、オオルリ、ホタル、ドジョウ、マンリョウを確認した。タンポポの調査地点は5箇所、在来タンポポのみの地点が3箇所、在来タンポポ優占地点が2箇所であった。



この「ある地区」が小地区であるとして、実際の生物の評点の最高点は35点でした。14.6点は35点の41.7%になるので、この地区の評価は「c」になります。

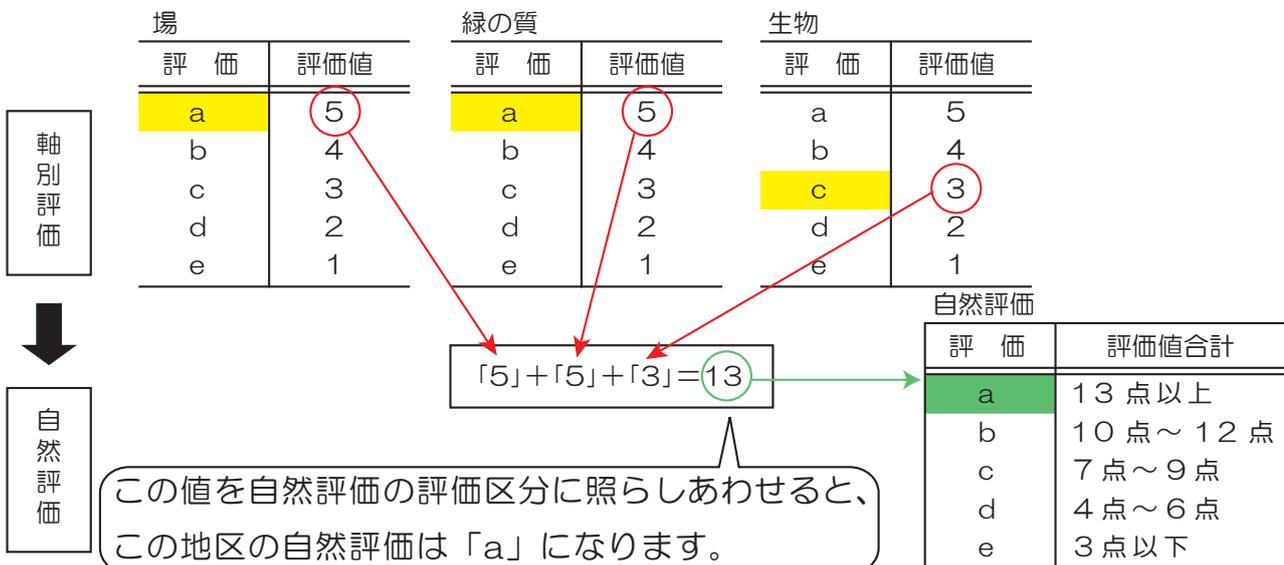
【自然評価】

各軸の評価値を合計し、その大きさを5段階評価しました。大地区の評価はA～E、小地区の評価はa～eで表示しました。

自然評価の算出例

—ある地区の場合—

場の評価が「a」、緑の質の評価が「a」、生物の評価が「c」であった。



6.2 評価の結果

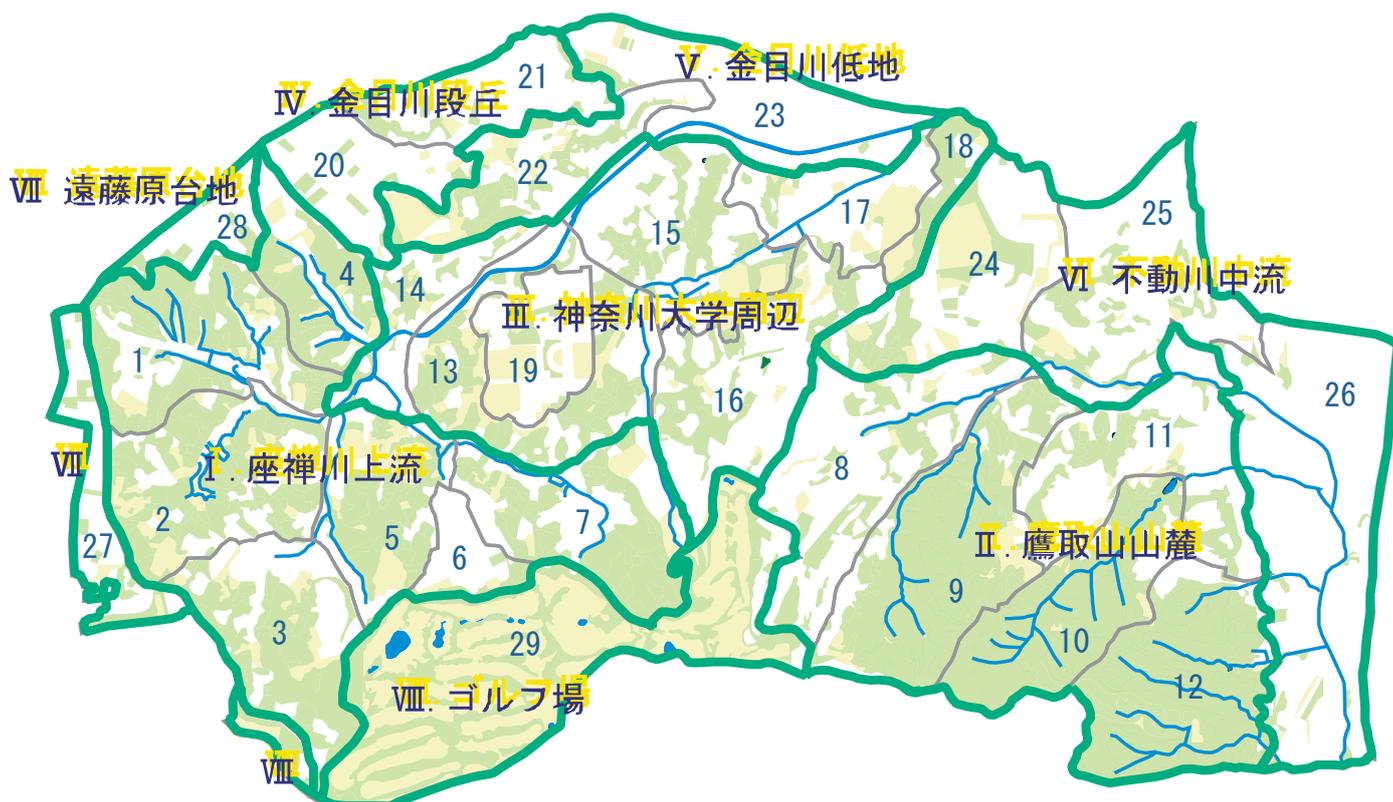
大地区、小地区の各地区の評価結果の一覧は右ページのとおりです。

A～E（小地区はa～e）の5段階で評価し、Aがもっとも高評価であることを示しています。

西部丘陵地域は、全体に良好な自然環境が残されている地域ですが、中でも座禅川上流と鷹取山山麓の評価が高くなりました。この2地区は先の結果で示したように、骨格となる地形上に、まとまりのある緑が残っている場所で、自然性の高い場所に生息、生育する生物が確認されています。

さらに細かく小地区の評価をみると、座禅川上流と鷹取山山麓の中でもさらに、愛宕山や駒ヶ滝付近、松岩寺周辺の評価が高くなっていることがわかります。

※大地区と小地区の各々の地区の評価は、第8章の73ページ以降に示しました。



◇各地区の評価結果一覧

大地区の評価					小地区の評価												
					地区	自然評価	場	緑の質	生物								
I 座禅川上流					1	a	a	a	a								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	A	A	A	A	2	a	a	a	a
自然	場	緑の質	生物														
A	A	A	A														
					3	b	a	c	c								
					4	b	a	b	c								
					5	b	a	c	b								
					6	d	d	d	d								
					7	a	a	b	b								
II 鷹取山麓					8	c	c	d	c								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	A	A	A	A	9	a	a	a	b
自然	場	緑の質	生物														
A	A	A	A														
					10	a	a	a	b								
					11	b	c	c	b								
					12	a	a	a	a								
III 神奈川大学周辺					13	b	b	b	b								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>A</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	B	B	C	A	14	c	c	c	c
自然	場	緑の質	生物														
B	B	C	A														
					15	b	b	c	b								
					16	c	c	d	b								
					17	c	e	c	c								
					18	b	a	c	c								
					19	d	e	d	d								
IV 金目川段丘					20	c	c	d	d								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>C</td> <td>A</td> <td>D</td> <td>D</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	C	A	D	D	21	c	a	d	d
自然	場	緑の質	生物														
C	A	D	D														
V 金目川低地					22	b	b	c	c								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>B</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	B	B	C	B	23	b	a	c	c
自然	場	緑の質	生物														
B	B	C	B														
VI 不動川中流					24	d	e	d	d								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>C</td> <td>E</td> <td>C</td> <td>C</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	C	E	C	C	25	d	e	d	d
自然	場	緑の質	生物														
C	E	C	C														
					26	c	c	c	c								
VII 遠藤原台地					27	c	c	d	d								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>C</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>D</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	C	C	D	D	28	c	c	d	d
自然	場	緑の質	生物														
C	C	D	D														
VIII ゴルフ場					29	d	d	d	d								
<table border="1"> <tr> <th>自然</th> <th>場</th> <th>緑の質</th> <th>生物</th> </tr> <tr> <td>C</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>					自然	場	緑の質	生物	C	D	C	D					
自然	場	緑の質	生物														
C	D	C	D														

大地区の評価

小地区の評価

A・B・C・D・E
 評価高 ← → 評価低

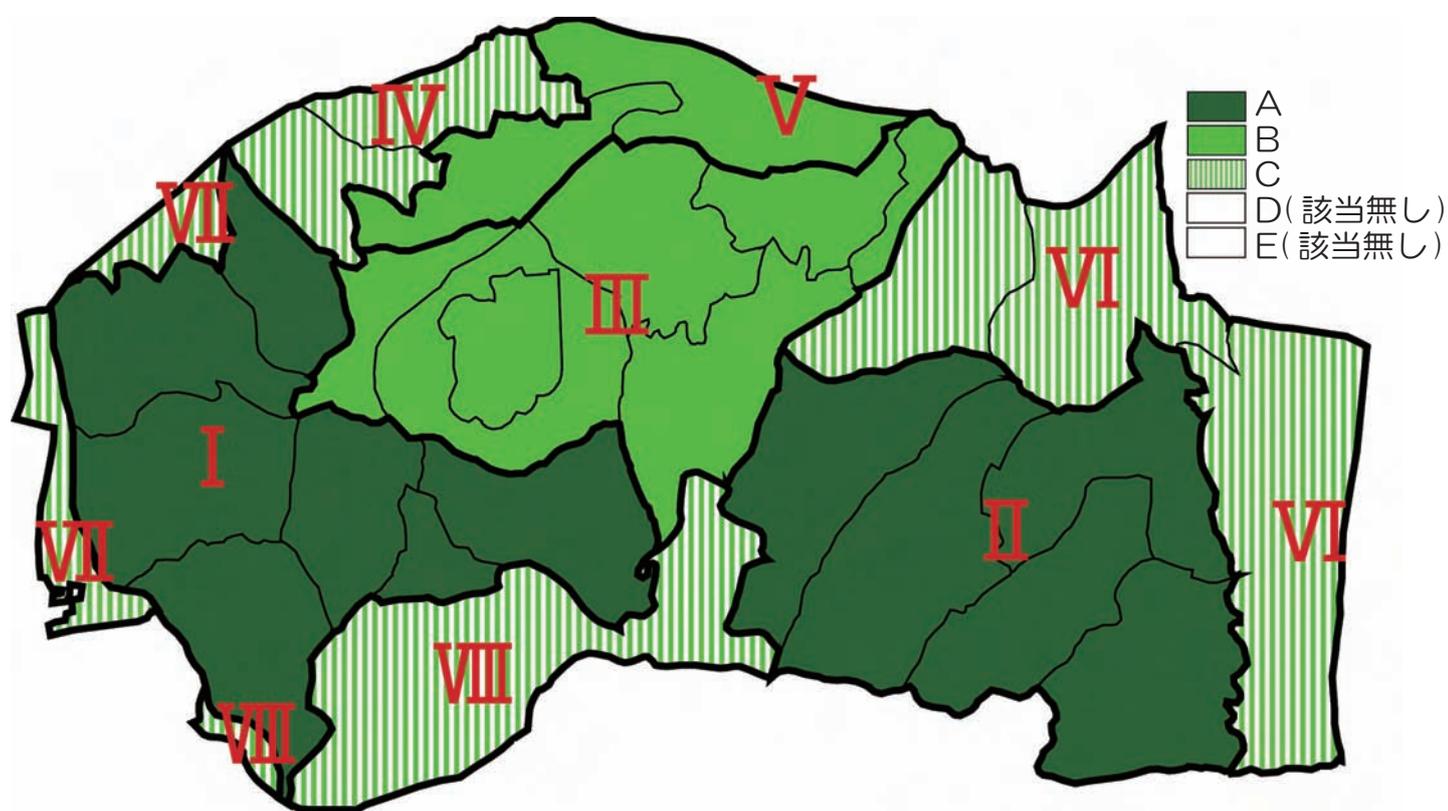
a・b・c・d・e
 評価高 ← → 評価低

※ 大地区の評価は、小地区の評価を積み上げたものではありません。評価については、61 ページを御参照ください。

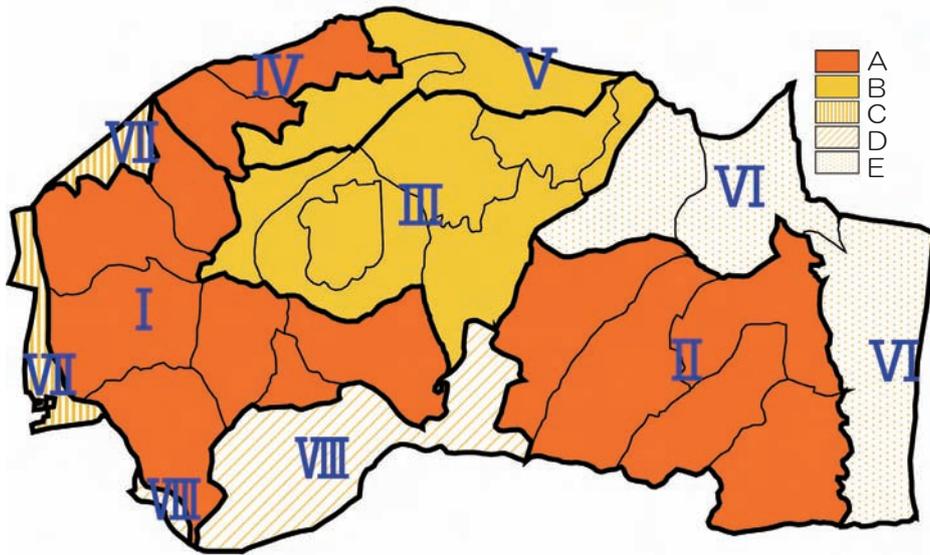
【大地区自然評価】

大地区の評価は、土屋の愛宕山一帯を含む座禅川上流（Ⅰ）と吉沢の鷹取山山麓（Ⅱ）の2地区がA評価でした。両地区とも骨格となる地形があり、緑の質が高く、多くの指標種が生息することを意味します。これに次いで、神奈川大学周辺（Ⅲ）と金目川低地（Ⅴ）がB評価、金目川段丘（Ⅳ）、遠藤原台地（Ⅶ）、不動川中流（Ⅵ）、ゴルフ場（Ⅷ）がC評価でした。D、E評価の地区はありませんでした。西部丘陵地域は、全体的に緑が多く存在し、緑が少ない地区でも周囲の自然が豊かなので生物が比較的多くみられました。この評価では場、緑の質、生物の評価のいずれもが低くなるような自然に乏しい地区がないことを示しています。

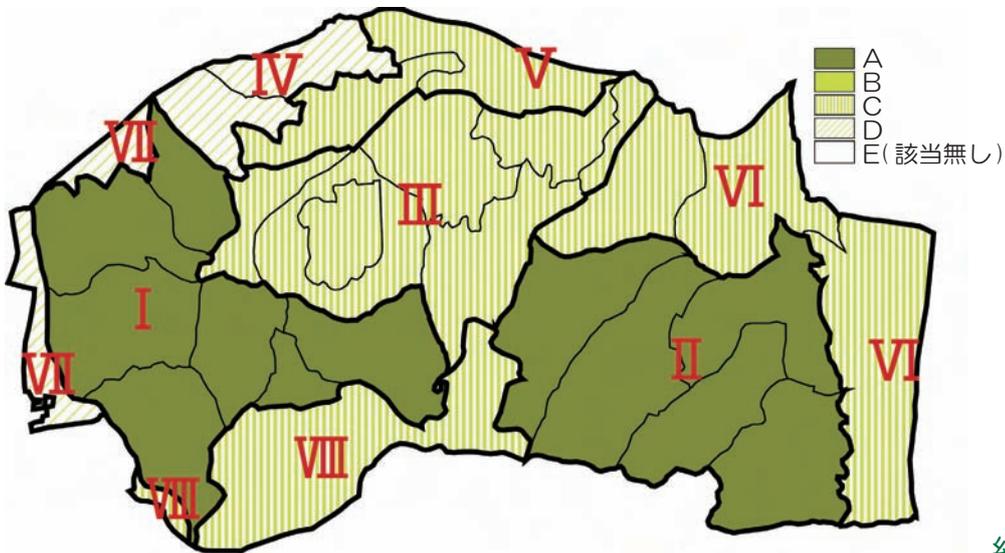
※各地区の詳細は8章の73ページ以降に示しました。



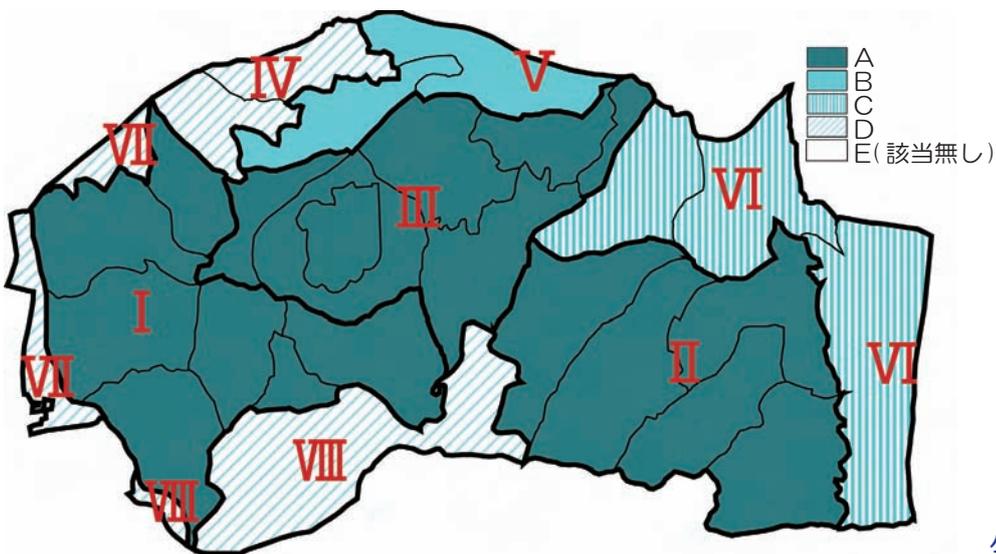
■大地区の自然評価



場



緑の質



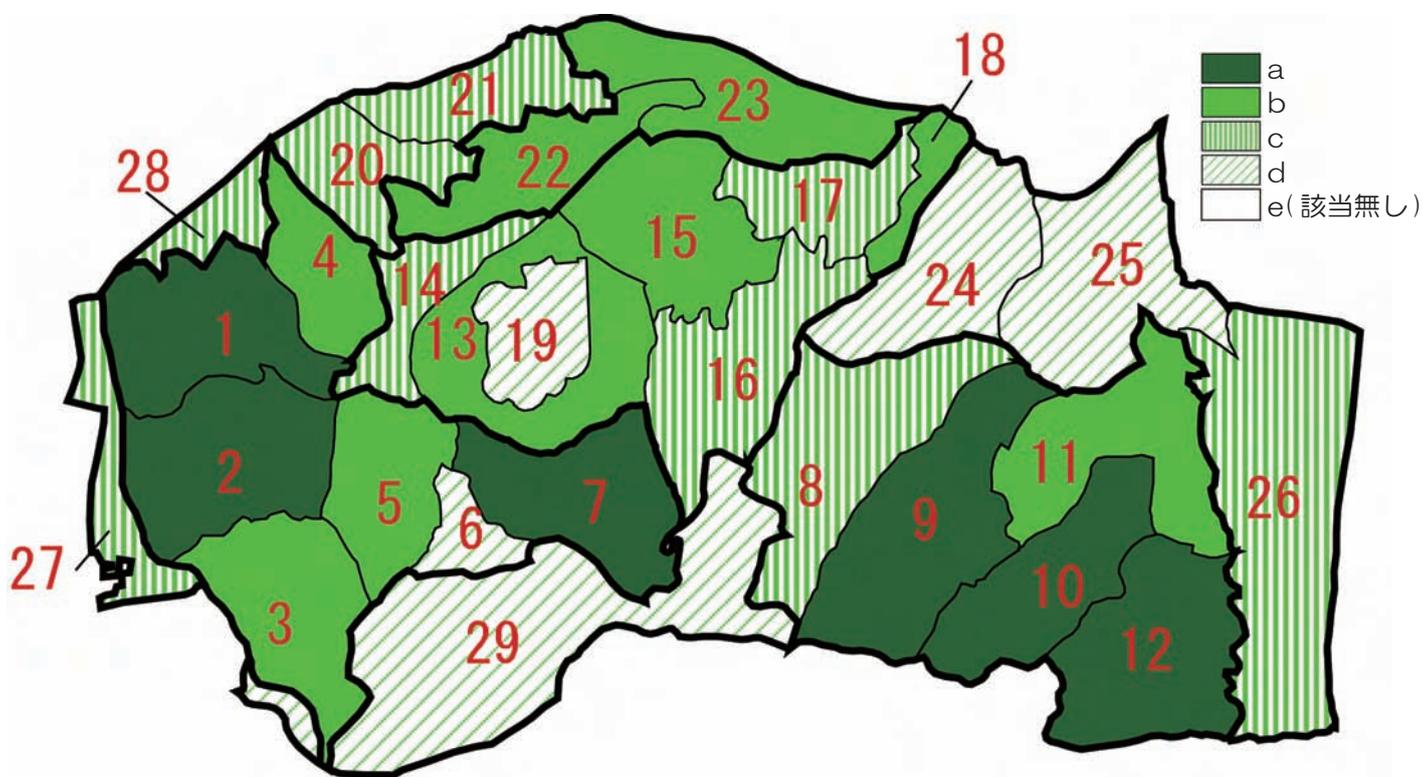
生物

【小地区の評価】

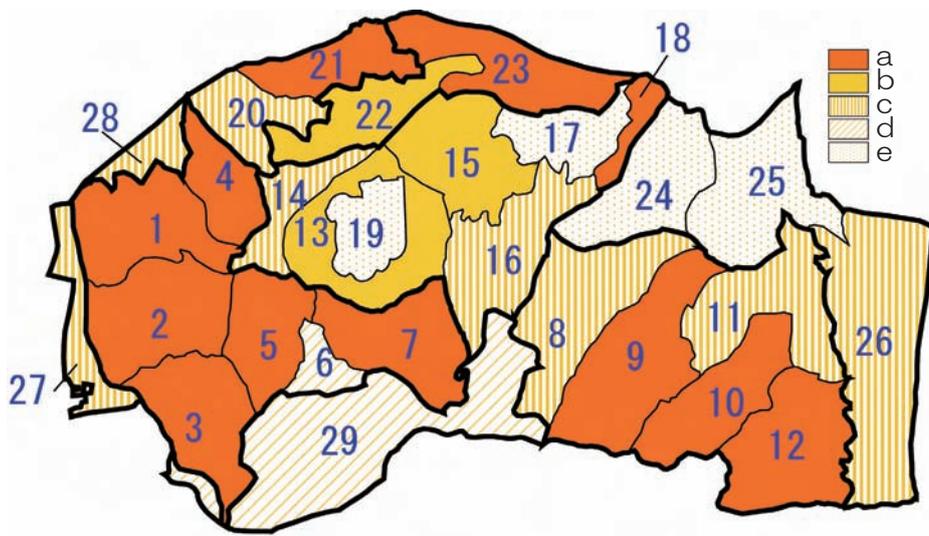
前項目でみた大地区の評価をさらに細分化した小地区の評価は、下図のとおりです。大地区でA評価であった座禅川上流（Ⅰ）、鷹取山山麓（Ⅱ）地域の中で、特に愛宕山や駒ヶ滝（1, 2）、松岩寺周辺（12）の評価が高く、場、緑の質、生物のいずれもa評価でした。この地区がⅠ、Ⅱ地区内でも特に重要であるといえます。

なお、新しく整備された畑地（6）、住宅など人の利用が進んだ地区（19,24,25）やゴルフ場（29）は低い評価となりました。

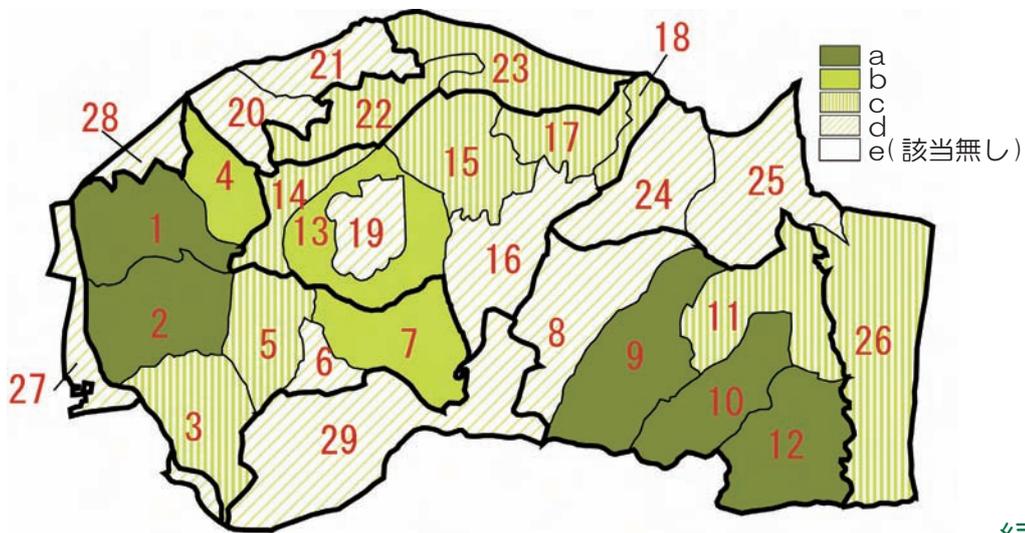
※各地区の詳細は8章の73ページ以降に示しました。



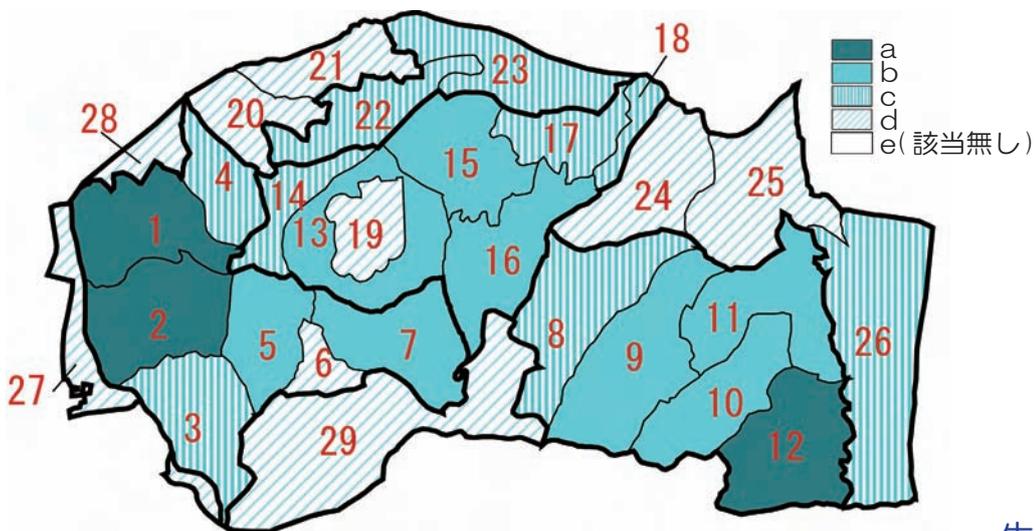
■小地区の自然評価



場



緑の質



生物